

平成20年度 東京都立園芸高等学校経営計画（定時制課程）

[1]学校のミッション

東京都立園芸高等学校定時制課程では、家族的な雰囲気の中で、恵まれた自然環境を活用した農業教育を展開して、生命をいつくしむ豊かな心と専門的なスキルをもった人間を育成し、我が国や地域社会の発展に貢献する。また、園芸技術専修生制度や三修制等を活用して、生涯にわたって主体的に学習しようとするニーズに応える。

[2] 目指す学校

1 目指す学校

「誇りと責任を尊び、地域と共生して、明るく、楽しく、規律ある学校」

(1) 誇りと責任を尊ぶ学校

生徒一人一人の個性や特性等を尊重し、生命を大切にすることをとおして、自ら為すべきことを自覚し、これをやり遂げる心を育む。

(2) 明るく、楽しく、規律ある学校

互いの人格を尊重する心豊かな人間性を育み、自律的な態度と勤労と学業を両立させる態度を身に付け、秩序ある学校生活を確立する。そのための具体的な目標として、生徒は、

あいさつをする。 ルールを守る。 汗を流す。

の目標を設定する。

教員は、

「生徒のために何が出来るか」 「授業を大切にする」という視点から、常に授業力の向上に努め、個々の生徒の実態に応じた分かりやすい授業を行う。

(3) 地域社会や小・中学校と共生して、地域の発展に寄与する学校

学校のミッションを自覚して、地域の小・中学校や諸機関との連携を深め、地域社会の発展に寄与する。

2 果たすべき役割・機能

(1) 都民や地域住民のニーズに積極的に対応する。

地域社会や地域の小・中学校に対して、農業に関する教育力等を積極的に提供するとともに、恵まれた自然環境や施設等の有効活用を図る。

(2) 都内農業高校改革の理念を踏まえ、信頼される学校づくりを推進する。

農業教育の特質を生かして、家庭や地域、近隣の小・中学校、他の関係諸機関等との連携を推進する。連携・貢献・共生の理念のもと、互いの信頼関係を構築し、大都市東京に存在する農業高校としてのミッションを果たす。

(3) 勤労青少年や農業に関する専門的な学習を希望する都民の学びの場としての機

能を十分に発揮する。

三修制や園芸技術専修生制度の改善を踏まえて、都民の多様な学習ニーズや生涯学習のニーズに柔軟に対応するとともに、生徒の実態等に応じた学習の改善・工夫を行う。

3 学校経営の重点

- (1) 「生徒のために今なすべきことは何か」という視点を学校経営の根幹に置き、課題解決に向けて、学校の教育機能を集中する。
- (2) 地域社会や関係諸機関との連携を深め、生徒や教職員の活動等とおして教育機能を提供し、地域社会と共生してその発展に貢献する。
- (3) 教育財産や教育予算を有効に活用して、効率的な教育活動を実践する。

[3] 中長期的目標

「誇りと責任を尊び、地域と共生して、明るく、楽しく、規律ある学校」を達成するため、中長期的な目標を以下のように定める。

1 愛校心や学校への誇りを確かなものとする。

本校の歴史や功績、卒業生の足跡や業績等を学ぶ。

集会等における校歌指導を充実させる。

生徒会活動、部活動を全校的に支援し、良き市民としての資質とスポーツに親しむ態度を身に付けさせる。

貴重な教育財産を整備する。

生徒主体の創立百周年記念行事を契機として、学校へのアイデンティティを涵養する。

2 明るく、楽しく、規律ある学校とする。

あいさつの習慣を身に付けるため、日常の教育活動の中で、教員が生徒に積極的に声をかける。

全教職員の共通理解に基づく生活指導や教育相談活動の充実などを通じて、生徒の社会規範意識を涵養し、豊かな人間関係のある安心して学べる学校とする。

「総合実習」や「草花」等の専門科目、学校設定科目「奉仕」などの体験学習や奉仕的な体験学習を通じて、働く喜びや公共に貢献する精神と自律性を育成する。

給食や「総合実習」、「生活園芸」等を通して食育教育を推進する。

3 「生徒のために何ができるか」という視点で教育活動を推進する。

生徒の特性等に応じた柔軟できめ細かい指導内容・方法を工夫し、魅力があり、分かりやすい授業を展開する。

生徒による授業評価に基づく研修等を通じて、学校全体の教育力(学校力)を高める。学校に適応しきれない生徒や課題を抱える生徒に対する教育相談活動を充実させ、中途退学者や原学年留置者を減少させる。

4 地域や関係機関、NPO等と連携して、奉仕活動や環境教育など活力ある教育を推進する。

特定非営利活動法人(NPO)「園芸アグリセンター」と連携した教育活動の実施

を検討する。

地域との連携活動を充実・発展させる。特に、地域の福祉施設等との連携・共生を深め、専門性を生かした奉仕体験活動に積極的に取り組む。

5 学校の持つ教育機能を活用して、開かれた教育を推進するとともに、学校への理解を得る活動を強化する。

校内花壇の植栽や校門の装飾等の学校環境の整備や奉仕活動等に精力的に取り組んで、地域や都民に対するアピールを強め、学校へのイメージを良好なものとする。近隣中学校への学校案内等の送付や学校ホームページの更新・改善により、学校への理解を深める。

6 学校予算は、効率化・重点化の視点から編成・執行する。

計画的な予算執行を行うとともに、費用対効果の観点を強化する。

予算の編成・執行に当たっては、実績主義を反映させるとともに、長期の学校経営計画と連動させた重点配分を行う。

[4] 今年度の取組みの重点目標と方策

1 教育活動の目標と方策

(1) 学校への愛着や自分に誇りが持てる指導を推進する。

校外での奉仕的な体験活動や日比谷公園ガーデニングショー、世界ラン展などの専門的な技術を発揮する活動等を通して自己有用感を体得させ、愛校心を高める指導を行う。

造園技能検定など専門的な知識・技術を活用できる資格の取得を推進する。

部活動等において対外試合等に積極的に参加し、活動の充実を図る。

生徒主体の創立百周年記念行事を契機として、学校へのアイデンティティーを涵養する。

(2) 学業両面からの生徒指導を充実させる。

校内への標語の掲示やHR・集会などでの指導を徹底させる。また、教員の共通理解と生徒理解を深めて生活指導に当たるとともに率先して生徒に声を掛ける。

生徒の学習意欲を高める教材等の研究・工夫を行い、学習への姿勢を高揚させる。

ホームルーム活動を活性化して学校適応指導を強化し、学習及び生活指導の両面で中途退学や原学年留置者を減少させる。

調べ学習の支援や読書活動を推進するため、図書館の積極的な活用を図る。

(3) 進路指導の充実を図り、生徒の自己実現を支援する。

学校全体の進路指導計画を充実させ、それぞれの学年に応じたキャリア教育を充実させる。

生徒の進路希望に応じた企業の開拓や大学等の受け入れ校の拡大等を行い、全ての卒業予定者の進路を確定させる。

(4) 教職員の専門的な力量を高めるための研修を充実し、魅力ある授業を創造する。

生徒の授業評価に基づく校内研修をはじめとして教科内容に関する専門性を高める研修を行う。

生徒の多様な教育ニーズに応じることができるよう、柔軟な発想で、学習内容・方

法の改善・工夫を行い、分かる授業、魅力的な授業を展開する。

(5)地域や産業界、NPOなどと連携した教育活動を積極的に展開する。

園芸に関する専門性を生かして、地域の福祉施設等と連携した教育活動を推進する。
地域の小・中学校や世田谷区と連携して、奉仕活動等を行う。

2 重点目標と方策

【学校運営】

(1) 奉仕活動等の推進

園芸科の特性を生かして、校内の美化や植栽、校門の装飾等の活動を推進するとともに、近隣福祉施設での奉仕活動を複数回実施する。

(2) 学校の教育力の向上

教員の専門的な技術を高める講習会や教育相談等に関する研修会に積極的に参加するなど、生徒指導、学習指導両面で教員の指導力を向上させる。

(3) 学校PR活動の強化

中学校生徒に向けて、通年で学校公開を実施するとともに、学校案内パンフレットの作成及びホームページによる情報発信などを行い、入学志願者の増加を目指す。
日比谷公園ガーデニングショーへの出展と上位入賞、世界ラン展や世界バラ博、明治神宮菊花展などに積極的に参加し、教育実績を都民に示す。

(4) 園芸技術専修生制度の充実

社会人や団塊の世代等の学習需要に対応して、園芸技術専修生制度を弾力的に運用し、都民の生涯学習のニーズに応じられる教育課程を編成する。

(5) 予算の効率的編成と執行の円滑化

早めの物品請求、計画的な申請など、学校経営支援センターの業務遂行システムに
適応できる予算執行を行う。
費用対効果に配慮した予算執行を行うとともに、実績に応じた予算編成を行う。

【各分掌】

(1) 教務部

生徒による授業評価を7月と12月の2回行い、これに基づく校内研修会で授業改善策を検討し、生徒の学習意欲や満足度を高める授業を昨年度以上に展開する。
園芸技術専修生の修業年限の弾力化に対応できるよう、専門科目の週時程への配当や履修の在り方等を改善する。
資格取得に伴う単位認定に関する規定を整備する。

(2) 生活指導部

生徒の部活動への参加意欲を高め、加入率を70%以上にする。
学校行事への生徒参加率を9割以上とする。
学期に2回以上、校外巡視、授業内外出禁止、校内巡視等の指導を全教員で行う。
校歌の指導を始業式をはじめとする学校行事の場で行う。

(3) 進路指導部

進路学習、進路相談及び進路調査を十分に行い、生徒の進路に対する意識を高める。

就職希望者に対する個別指導を充実させ、内定率 100%を目指す。

進学希望者への指導を充実させ、4年制大学等への進学の道を拓く。

(4) 農場部

農場施設・設備の安全管理に十分配慮し、年間を通して学習環境を常に整え、教員、生徒とも学校事故を撲滅する。

3級造園技能士の検定合格率 100%を目指し、放課後等の受検指導に力を注ぐ。
近隣福祉施設等への草花植栽や都庁花壇等、学校の特色を生かした奉仕活動を年間 4 回以上行う。

学校の教育財産の整備と百周年記念事業を全日制と連携して行う。

(5) 経営企画室

学校改革計画を具体化させるため、基礎データの収集や提言など、学校経営改善のための企画や施策化を行う。

効率的かつ計画的な予算執行事務を行うとともに、課題解決型の自立経営予算を編成する。

校舎改築工事等を適切に監理し、生徒・教職員の安全確保を図る。

学年会計や給食会計等の私費会計の適正な執行を行う。また、教員の連携・協力のもと、授業料納入や学事等の事務執行を迅速に行う。